

賢治の芸術論にみる命とは

「農民芸術概論綱要」 宮沢賢治

結論

……われらに要るものは銀河を包む透明な意志

巨きな力と熱である……

われらの前途は輝きながら峻峻である

峻峻のその度ごとに四次芸術は巨大と深さとを

加へる

詩人は苦痛をも享樂する

永久の未完成これ完成である

「芸術は爆発である」 岡本太郎

「表現は命の躍動である」

人間は 37 兆億個の細胞からなり、日々数千億個の細胞が生まれ変わっているとされる。細胞それ自体、重合分裂を繰り返す。

「若い細胞の集合体である子ども」の動きを見ると、「躍動・輝き」こそが、「人の本質」であると観ることが出来る。

「農民芸術の分野」

……どんな工合にそれが分類され得るか……

声に曲調節奏あれば声楽をなし 音が然れば器楽をなす

語まことの表現あれば散文をなし 節奏あれば詩歌となる

行動まことの表情あれば演劇をなし 節奏あれば舞踊となる

光象写機に表現すれば静と動との 芸術写真をつくる

光象手描を成ずれば絵画を作り 塑材によれば

彫刻となる

複合により劇と歌劇と 有声活動写真をつくる

準志は多く香味と触を伴へり

声語準志に基けば 演説 論文 教説をなす

光象生活準志によりて 建築及衣服をなす

光象各異の準志によりて 諸多の工芸美術をつくる

光象生産準志に合し 園芸営林土地設計を産む

香味光触生活準志に表現あれば 料理と生産とを生ず

行動準志と結合すれば 労働競技体操となる

(引用 農民芸術概論綱要 (宮澤賢治))

「芸術はいまわれらを離れ然もわびしく墮落した

いま宗教家芸術家とは真善若くは美を独占し販

るものである」

(引用 農民芸術の興隆
……何故われらの芸術がいま起らねばならない
か…… 農民芸術概論綱要 (宮澤賢治))

結語 …… 「人には輝く権利」がある

私の考える「いのちの根本は『躍動』
にあり、生物・万物共通のものである。

この権利が、一部のものによって独占され販売
される現状は、宇宙の摂理に反するものです。

「だれにも等しく『輝く権利』があります。

公共の使命を私利私欲に使ったり、公共
の名により、命が軽んじられたりするこ
とを、許してはなりません。